

2022 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部国際共創学科 1 年
------------	-----------------

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私は、START プログラムを通して学んだことが大きく分けて 2 つある。1 つは、積極的にコミュニケーションを取ることの大切さである。このプログラムでは、一緒に参加した広島大学の学生だけでなく、韓国外国語大学のサポーターの学生たち、先生たち、またタイのカセサート大学の学生たちとも関わる機会を得た。そこで、彼らとコミュニケーションを図ることを通じて、韓国語やタイ語、国の慣習などといった教養となりうる知識を得ることができた。また、教養面だけでなく、コミュニケーションにより協調性などといった人間力も磨くことができた。また、学んだことの 2 つ目として、優しさの大切さが挙げられる。このプログラムを通して、サポーターや大学の先生陣に数えきれないほど多くの場面で助けられてきた。彼らがいなければ、どの研修も自由行動も成立しなかったと考える。その彼らの無償の優しさを通して、優しさのかけがえのなさを学び、私も優しさを与えられる人間になる必要があると強く感じた。このプログラムでの経験を、今後の HUSA 留学や、課外活動、就職活動などの場面において、コミュニケーションと優しさに重きを置きながら活かしていきたい。どの場面においても、コミュニケーションなくして何もできない上、優しさの感情を欠いてはいけないので、この 2 つを活かしてより良い人間になれるように努力していきたい。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

プログラム内容の全体的な感想としては、これまでの人生の中でもかけがえのない、唯一無二の時間となる 2 週間を与えてくれた、他とない素晴らしいプログラムであったと強く伝えたい。その中でも特に感嘆した点について、詳細を話していきたいと考える。まず授業面において、中でも韓国語の授業では、一年かけて学んでいく内容を重要なところを凝縮した内容を 2 週間という期間で学ぶことができたという点が素晴らしかった。韓国の経済の授業に関しても、少ない回数ながらもポイントを押さえた授業で、韓国の歴史について理解を深めることができた点が見事であると感じた。二つ目に、フィールドワークについて、韓国民俗村や景福宮などの訪問を通して伝統的な韓国文化を学ぶことができただけでなく、ハイカーグラウンドや青瓦台などを訪問し先進的文化を知ることもできた点がとても価値あるものであった。また、それら文化を、体験型のフィールドワークにより肌で感じることができたことが何よりもかけがえのない経験となった。そして、何よりもサポーターの学生たち、先生たち、タイの学生たち、共に行った広島大学生たちと出会う機会を設けてくれたという事が、このプログラムの醍醐味であった。一期一会を大事にしようと思わされた、最高のプログラムであった。本当に感謝を述べたい。

（３）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

今後、START プログラムに参加する後輩たちには、大きく分けて２つのことをアドバイスしたいと考える。まず、常備薬を必ず携帯することを強く勧めたい。２週間という短い期間だからこそ、体調を崩すことは何よりも勿体無いことである。実際に、私は腹痛におそわれ、薬を持っていなかったことからそれを防ぐことができずに伝統的な韓国料理を食べる機会を一度逃してしまい、そのことが大変心残りとなってしまった。後悔しないためにも、１秒１秒を残さず楽しむためにも薬は携帯することをアドバイスする。２つ目に、気持ちが伝わるだけのお土産、手紙を早くから準備することを強く勧めたい。私はこの２週間という短い期間ながらも、想像を遥かに超えるほど、サポーターや先生方にお世話になった。そして、その恩を返せるだけの十分なお土産を用意できなかったことを非常に後悔している。そのため、感謝を伝えるに十分なお土産、手紙を早いうちから用意することをアドバイスする。

2022 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部総合科学科 1 年
------------	----------------

（１）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私はこの START プログラム参加を通して、異なる文化や背景を持った人とコミュニケーションをする力を養い、その重要性を改めて学ぶことが出来た。プログラム中では、韓国人学生やタイのカセサート大学からの学生と英語でのコミュニケーションをする機会が多くあった。他の学生と会話をしていく中で、三か国それぞれの文化、考え方の違いを知り、そのような違いを受け入れた上で、コミュニケーションをとっていく必要があることが再確認できた。学生との会話だけでなく、韓国の店員やタクシー運転手との、プログラムで習った韓国語や英語を使った会話においても、異文化理解の必要性を感じた。また、韓国の街を見てみると、明洞や東大門などの観光地以外では、意外と説明や看板の多くがハングルのみで表記されていると感じた。しかし、このような状況は日本も同様に、英語表記を追加するなど、インクルージョンやダイバーシティに配慮した環境を整えることが重要であると考えた。

この経験は、今後の長期留学や国際交流、働いていく上でも活かしていきたい。留学などこれからの生活においても、異なる背景を持った人とコミュニケーションする機会が多くある。そのような場面において今回学んだことを活かして、異文化理解を深めていきたい。そして、普段の生活でも情報発信する際などには、日本語だけでなく英語で発信するなど、インクルージョンやダイバーシティに配慮して生活していきたい。

（２）プログラム内容についての全体的な感想

プログラムの内容に関しては、まず、韓国語の授業では実際に声に出して発音してみたり、ペアになって活動したりと、楽しく効果的に学ぶことが出来たと思う。特に、私は韓国語を学んだことがなく、韓国語初心者であったが、ハングルの読み方などの基本的なことを理解することが出来た。

午後の英語での授業も興味深い内容で、先生の語り口調も面白く、楽しく学ぶことが出来た。先生の体験談も交えられ、そのようなリアルな体験談からも韓国の経済的な発展や、韓国、アジアのこれからについて考えることが出来たと感じる。先生の語りだけでも、興味深く、面白い内容であったが、学生同士のディスカッションなどの活動があったら、さらに活発な授業になったと思う。

校外学習では、民俗村や景福宮などの歴史的な場所だけでなく、HiKR GROUND といった近代的な場所も見学して、韓国の様々な文化に触れることが出来た。校外学習で外出する際だけでなく、授業後にサポーターの学生と観光地以外の場所にも多く行き、観光地ではできない体験をすることが出来た。このような体験は START プログラムならではのものだと感じた。

（３）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

今後 START プログラムに参加する後輩には、同行する広島大学の学生だけでなく、受け入れてくれる大学や、他の国の参加大学からの学生と積極的に交流することを強く推奨する。他の国の学生と交流することは、相手の国の文化などを知る一番の近道であると思う。この START プログラムでは、普通の留学とは違い、他の学生と集団行動をすることが多く、学生と関わりあうことも多い。そのような START プログラムの特色を活かして、積極的にコミュニケーションをとっていくべきである。異国の人と交流する上で、一番の不安は語学力だと思う。実際に自分自身も、渡航するまで自身の英語力に不安を持っていた。しかし、一度話してみると意外と会話を楽しむことが出来て、もっと話したいと思うようになった。このもっと話したい、もっと自分の思いを伝えたいという気持ちが英語力向上への意欲にも繋がっていると感じる。このようなモチベーション獲得や異文化理解のためにも、他の国からの学生との交流を大切にしたい。

また、渡航する前には留学先の文化や言語について少し予習をしたり、現地であると便利なアプリ（韓国であったら Kakao 系のアプリなど）を事前にインストールしておくプログラムをさらに楽しむことが出来ると思う。